たばこのリスクについて

たばこ煙に含まれる化学物質	約5300種類以上もの化学物質が含まれています。この中には、ニコチンやタール、一酸化炭素などの有害物質と70種類の発がん物質が含まれています。 例をあげれば、アルファ線を出すポロニウム-210、アルデヒド類、ニトロソアミン類、多環芳香族炭化水素類（PAH）などです。 たばこの習慣性の背景には、ニコチン中毒があります。たばこ煙中には、純粋なニコチンだけでなく熱分解過程で種々のニコチン派生分子が含まれており、これらの派生分子がニコチン中毒を増強すると考える研究者もおります。
たばこの健康リスク	喫煙はがんをはじめ、脳卒中や虚血性心疾患などの循環器疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や結核などの呼吸器疾患、２型糖尿病、歯周病など、多くの病気と関係しており、予防できる最大の死亡原因であることがわかっています。
加熱式たばこの健康影響	加熱式たばことは、たばこ葉やたばこ葉を加工したものを、燃焼させずに電気的に加熱し、エアロゾル（霧状）化したニコチンと加熱によって発生した化学物質を吸入するタイプのたばこです。 加熱式たばこは、喫煙者本人および周囲への健康影響や臭いなどが紙巻たばこより少ないという期待から、使い始める人が多くいます。 化学成分を分析した結果からは、加熱式たばこの主流煙には、多くの種類の有害化学物質が含まれているものの、ニコチン以外の有害化学物質の量は少なかったと報告されています。しかし、販売開始からの年月が浅いため、長期使用に伴う健康影響は明らかになっていません。 また、量が少ないとしても、たばこ煙にさらされることについては安全なレベルというものがなく、喫煙者と受動喫煙者の健康に悪影響を及ぼす可能性が否定できないと考えられています。
医療現場の禁煙	改正健康増進法では、2019年7月より、行政機関の庁舎や医療施設、学校、児童施設においては施設内禁煙と定められています。 **将来医療福祉分野で活躍する本学学生の皆さんには、実習前、遅くとも就職までに、是非、禁煙してください。**